

令和 2 年度第 2 回蓮田市地域包括ケア推進代表者会議
議事に関する意見について

顧問 小川孔美

【第 1 回書面会議の意見の反映(報告)について】

それぞれのお立場にて新型コロナウイルス感染症対応をされていることがよくわかりました。状況は時々刻々と変化するので、各団体から提供されている「手引き」等をよく参考にし、基本を大切に継続していくことが大切だと思います。

一方、何を、どのように注意すればいいかわかってきた部分も多いと思います。

インターネット等の情報にうまくアクセスできない市民のための活動については、対策をしっかりと行いながらさらに展開していく方向性で考えてもいい時期ではないでしょうか。

これから温暖な気候にもなっていきます。

野外での介護予防教室・栄養教室(長野)、個別健康相談実施(兵庫)を行い、体力低下や独りで思い悩むことが避けられ、効果をあげている自治体もあるようです。あるいは介護支援専門員(ケアマネジャー)とともに、理学療法士や作業療法士、管理栄養士が同行訪問し、ご本人の健康状態へのアドバイスをを行うなどアウトリーチに力を入れる取組(藤井寺市)もあるようです。

蓮田市の地域性を考え、よりよい取組、対応についてさらに検討を重ねることが大切だと思います。

【認知症初期集中支援チームの活動について】

認知症初期集中支援チームの活動が、開始当初に比しその効果があがっていることは、皆様のご尽力の賜物だと思います。

そのうえで、「初期集中支援チーム支援終了時の、支援方針の引継ぎ等を継続した支援のための連携が課題」と回答されているが、まさにその点が今後のポイントとなると思われます。

国立長寿医療研究センターの報告では、継続した支援のための連携では、地域のあらゆる社会資源の協力(ご本人が以前から趣味活動にて通っていた教室、美容室、コンビニ、スーパー、老人クラブ、民生委員など多様)が必要となることが明らかとなっています。また、成年後見制度やあんしんサポートねっと事業等との連携も重視されています。

「うまくいった事例」「うまくいかなかった事例」を丁寧に検証しつつ、どのような対応に問題点が生じやすいのか分析し、その点についてより対応を強化できるようにすることが重要だと思いました。